

Energy エネルギー

藤原 弘達

エネルギー第二本部

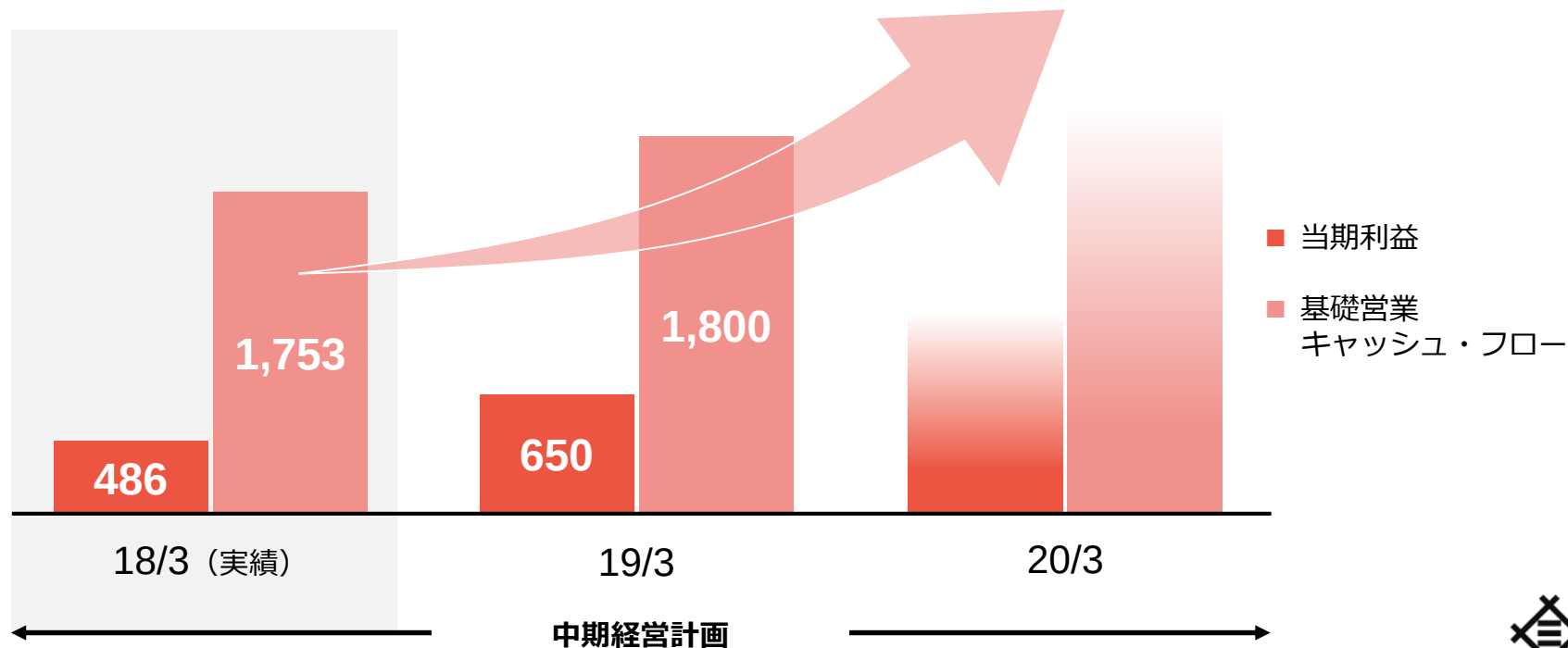
基本戦略

01 競争力ある資産ポートフォリオの構築

02 中～下流・エネルギーValue Chainの展開

定量目標 当期利益／基礎営業キャッシュ・フロー

単位：億円

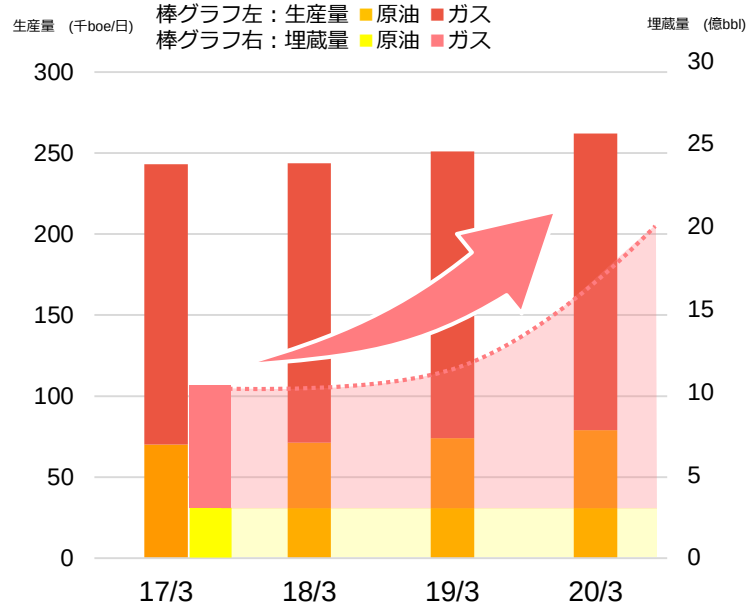


競争優位性

原油ガス持分権益生産量・埋蔵量・LNG生産能力

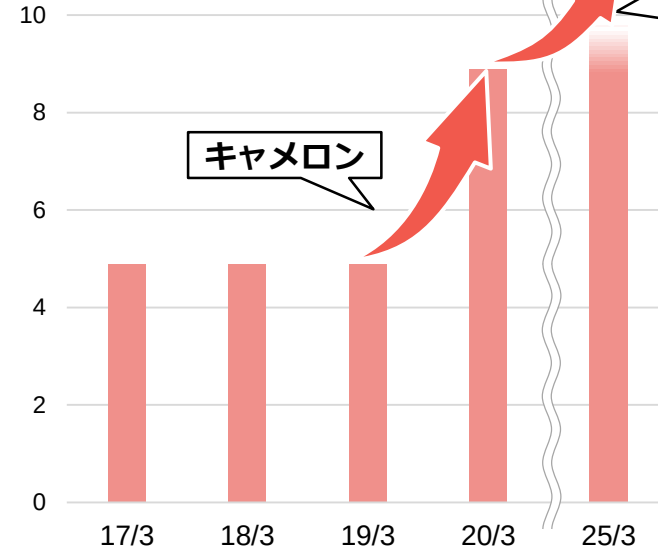
持分権益
生産量・埋蔵量

※埋蔵量はFID済みのプロジェクトのみ



LNG持分生産能力

(百万トン)



環境認識

経済成長と人口増によるエネルギー需要の増加

化石燃料

主要な一次エネルギー源であり続ける

原油

需要が2030-40年に
プラトーとなるシナリオも

ガス

長期的に堅調な
需要伸長を見込む

非化石燃料／ 再生可能エネルギー

社会的二ーズ拡大
コスト低下による普及

時間軸を意識した資産ポートフォリオ・マネジメント
ガス事業の更なる拡充

再生可能・新エネルギーへの
取り組み

1 競争力ある上流資産ポートフォリオの構築

E&P事業

◆ 豪州AWE社の買収

- ・ 資産ポートフォリオの拡充
2P埋蔵量82MMBOE（17年12月）、生産量2.5MMBOE（18年見通し）
- ・ オペレーター機能獲得

Waitsiaガス田

- ・ 2018年FID/2020生産開始予定(検証中)
- ・ 陸上ガス田で需要地/既存インフラに近く、価格競争力あり
- ・ 生産拡張や埋蔵量アップサイドの期待あり



E&P事業全体への
波及効果・
相互作用

1995
Wandoo油田
参画

2004
Enfield/Vincent
参画

2015
Kipper参画

Step
Change

Waitsia
FID

Waitsia
開発

Waitsia価値最大化、
近隣鉱区開発

豪州/NZ域での
オペレーション拡大

1 競争力ある上流資産ポートフォリオの構築

LNG事業

◆ モザンビーク Area1

巨大な資源量

日本の天然ガス消費量の

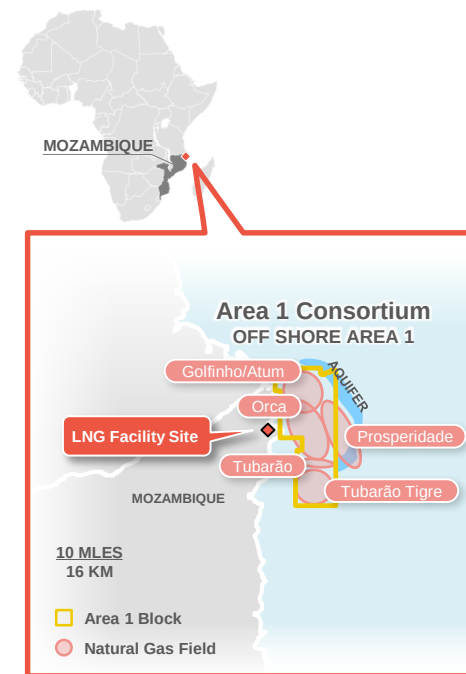
15年分以上に

相当する約75tcf

低いEntryコスト

探鉱段階から参画
(約10年前)

- ・ 年産1,200万トンで2020年代初頭生産開始予定、更なる拡張余地あり
- ・ 長期的な安定供給と収益貢献を期待



2 中～下流・エネルギーValue Chainの展開

◆ キャメロンLNG

- ・ 当社LNG取扱数量 **年間400万トン*アップ**
*約1,200万世帯が1年間に使うガスの量
- ・ 自社LNG船7隻を活用したグローバル・トレーディング

エネルギー
Value Chain



Cameron LNG



今後のパイプラインプロジェクト

